

東北地方から桜だよりが届けられた頃、「被災した子どもたちに本を贈る運動」を始めました。毎日、多くの方々から募金の申込みや問合せをいただき、反響の大きさに驚いています。6月からは、本を希望される機関・団体を募り、それぞれの子どもたちに合った本を選んで購入、保護カバーをかけて順次発送します。年末まで続ける長丁場です。ご支援をお願いします。現在会員登録数520人さま。ついに500人超え！ご愛読いただき本当にありがとうございます。次号は6月21日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ
【2】コラム
 《1》ＹＯ！この本読んだ？ Yasuko's & Okiko's Talk
 《2》読書活動ボランティアのためのワンポイント 9
 《3》サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-
 《4》行って来ました！
【3】全国のイベント紹介
【4】プレゼント

■ 【1】お知らせ ■

● 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る

『いっしょだよ』募金のお願い！

子どもたちに本を！被災地の図書館や学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

◎ 募金是最寄りの郵便局から郵便振替による送金をお願いします。

口座番号：00970 - 9 - 12891 加入者名：毎日新聞大阪社会事業団

・通信欄に「子どもの本」と明記ください。

・お名前を毎日新聞に掲載させていただきます（匿名にもできます）

・税制上の優遇措置が受けられます。

* 本そのものの寄付は、受け付けておりません。ご了解ください。

主 催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合

毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

◆ 活動報告については、
当財団HP <http://www.iiclo.or.jp/> をご覧ください／

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『ぼくたちとワッフルハート』 マリア・パル/作 松沢あさか/訳
堀川理万子/絵 さ・え・ら書房 2011年2月

あらすじ： 9歳の少年トレリは7人家族。隣には母娘二人で暮らしている同級生のレーナが住んでいる。二人はいたずらばかりしているが、トレリのおじいちゃんや極上のワッフルを作ってくれるトレリの大おばあちゃんに愛されている。ところが大おばあちゃんが亡くなってしまい、ほどなく、レーナが母親と町に引っ越してしまう。レーナは町を逃げ出してトレリの家に住むことになり、夏至祭りの日、レーナの母親は再婚する。その日、トレリとレーナは大おばあちゃんを恋しがっているおじいちゃんのためにワッフルを焼く。対象年齢：小学校高学年以上

Y：ノルウェーの過疎の村を舞台にした作品です。気の弱いトレリが、レーナも自分と同じように自分のことを「親友」って思ってくれているかなと不安になるところが共感できました。

O：レーナの大胆な行動やおてんばな感じは『長くつしたのピッピ』のピッピを思い起こしますし、北欧児童文学が脈々と描いてきた物語の香りがする作品ですね。

Y：レーナの発想は楽しく、ノアの箱舟ごっこをしてトレリのおじさんのボートにいろんな動物を乗せたり、父親がいないレーナが近所のお店に「パパ求む」という張り紙を出したりするなど、笑ってしまいました。

O：どんなにいたずらをしようと、家族や周りの大人からしっかり愛されている子どもたちが描かれていて、新しい作品ですが、しっかりした基盤があってそれに支えられて育つ「子どもらしい」子どもが描かれています。5～60年前に読んだ作品のような安心感がありました。

Y：一方でトレリのお姉さんがコロンビアからの養女という設定だったり、トレリとレーナが老馬をもらいうけたおじいさんに会いに行った老人ホームで、一人のおばあさんが戦争の記憶にとりつかれている様子を描いたりする点には現代的な要素を感じました。

O：タイトルに「ワッフルハート」とあるのですが、もう少し読者にわかりやすかったらよかったかな、たとえば、『ぼくたちとハートのワッフル』

では、ダメかしら？

Y：ハートにはワッフルの形と心のハートの二つの意味が重なっています。
大おばあちゃんが焼いてくれたワッフルをトレリたちが焼くことによって
おばあちゃんの死を悲しんでいたおじいちゃんが元気付けられる最後のシ
ーンは温かい気持ちになりました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 9

「その5 絵本の選び方(5) 絵本を評価する：登場人物」

物語にとって「いつ どこで だれが どうした」は基本要素ですが、中
でも「だれ」(＝主人公を含む登場人物)はとても重要です。印象に残る絵本
には、マドレーヌやピーター・ラビットやぐりとぐらなど、魅力的な人物が
浮かんできます。

昨今、キャラクターやキャラクター絵本という言葉がよく使われますが、
絵本を選ぶ際は、この言葉に慎重になる必要があります。英語の character
には、「性格」と「登場人物」という二つの意味がありますが、日本で使わ
れる「キャラクター」には、わかりやすい外見や固定した性格を持った人物
というイメージがあります。

いわゆるキャラクター絵本からは、人間はわかりやすく、単純で、自分らし
さを見つけるよりも、人に好きになってもらうことが大切というメッセージ
が読み取れることがあります。特に「かわいい」という言葉が、登場人物を
評する言葉としてよく聞かれますが、絵本を評価する際に、この言葉は便
利ですが、危険性をはらんでいると思います。

「かわいい」にはさまざまな意味が含まれますが、絵本に描かれた子どもを
「かわいい」と表現するとき、従順や純心無垢という意味で使うことがあり
ます。それは、子どもの視点で人物像を評価しているのではなく、大人の望
む子ども像を当てはめている可能性があります。自分で悩み、考え、時には
ネガティブな感情をぶついたり、大人に反抗したりしながらも自分の道を切
り拓いていく子どもは「かわいく」ないかもしれませんが、ぜひ、子どもた
ちに読んで欲しい絵本の子ども像だと考えます。

絵本という芸術を楽しむことは、「人間とは何か」「社会とは何か」を考え
ることにつながります。そうであれば、絵本の登場人物の考えの深さや個性
の強さや感情の揺れを読むことによってこそ、人間の性格の複雑さや、人の
多様性に気づき、作品との深い出会いが可能になると思うのです。つまり、
絵本作品の登場人物を評価する際には、子どもであれ大人であれ、一人の
生きた人間(時には動物などで表現されています)として描かれているか
ということが重要だと思えます。

*次号では「その5 絵本の選び方(6) 絵本を評価する：構成」の予定です。
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース第9回目。今回ご紹介するのは、以下のサイトです。

東書文庫（東京書籍株式会社附設 教科書図書館）

<http://www.tosho-bunko.jp/>

今回は、児童文学にも大変関係が深い教科書のサイトです。

東書文庫は、国内最大級の教科書専門図書館です。昭和11年に完成した施設の母体は、教科書出版社として有名な東京書籍。同社は、もともと国定教科書を印刷・製本するために作られた会社ですが、創立25周年（昭9年）のとき、散逸しがちな資料を収集・保存すべく、図書館建設を決めました。

教科書関連資料14万冊を所蔵。現在の教科書や指導書、学習指導要領はもとより、江戸時代に藩校や寺子屋で使用されていた教科書（往来物など）や旧制中学、高等女学校のもの、師範学校の教科書から教育掛図・版木、いわゆる戦後の墨塗り教科書に至るまで、専門図書館と呼ぶにふさわしい実に多くの資料が保存されています。76,000点が国の重要文化財に指定されているそうで、その稀少さがわかります。

サイトでは、所蔵資料の検索ができ、かつ一部は収録作品名で探すことができます。（ただし作品検索は、昭和24年以降の小・中学校の国語教科書に限る）自分が子どもの頃に読んだ国語教科書に、どのような作者のどの作品が入っていたかを見るといった楽しみ方もできそうです。（J）

※次号は、資料所在データベース篇〈その10〉の予定です。

《4》 行って来ました！

吹田市に3月27日にオープンした山田駅前図書館に行ってきました。阪急千里線山田駅の東側、「吹田市立子育て青少年拠点 夢つながり未来館」のワンフロアが図書館です。

所蔵資料約4万8千冊のうち、児童書1万2千冊、ヤングアダルト本3千冊とのことで、児童書の読み物やマンガの書架がフロアの3分の1ほどを占めています。入口そばにある絵本・紙芝居のコーナーは靴を脱いであがる小部屋になっていて、壁面には子どもたちが描いた本の登場人物の似顔絵が飾られていました。

フロアの中央奥には、ガラスで囲まれた円形の吹き抜けの庭があり、地下2階とは思えないほどの光が射しています。また、書架間隔が広く、ベビーカーを押すお母さんも、気にせず本を選べます。ゆったりとくつろいだ雰囲気読書を楽しめる工夫がされています。

印象深かったのは、万博公園にあった「大阪府立国際児童文学館」のメモリ

アルコーナーが設けられていたことです。当時の建物模型や、館内の様子を写した写真が展示され、催し物の記録ファイルや、刊行物も並べられています。当時のこども室で貸出用に使われていた本は、ここで1冊1冊「大阪府立国際児童文学館寄贈本」という印を押され、丁寧に整備されて、また利用していただけるようになっていきます。私たちの手を離れて1年余ですが、本を手にとると懐かしさがこみあげてきました。(K)

【3】全国イベント紹介

- 第2回街頭紙芝居 新人養成講座 ‘あなたも町かどのヒーローに’
会 場：塩崎おとぎ紙芝居博物館 大阪市西成区花園南1-12-24
日 時：6月3日(金) 18:00~20:30
 6月4日(土) 10:00~16:00
対 象：紙芝居に関心のある18歳以上の方(定員20名)
参加費：5,000円(2日間)
主 催：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『ぼくたちとワッフルハート』(マリア・パル/作 松沢あさか/訳 堀川理万子/絵 さ・え・ら書房 2011年)を抽選で1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.9プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は6月10日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

毎日新聞に掲載される「被災した子どもたちに本を贈る運動」のイラストは、「14ひきのシリーズ」で有名な絵本作家いわむらかずおさんが描いてくださいました。10匹きょうだいの長男いっくんをはじめ、みんなが本を抱えています。

ご自身も被災されたのですが、いわむらさんの温かさ、やさしさが伝わってきます。このメルマガでは、ご覧いただけないのが残念です。我が家は、購読新聞を30年ぶりに変更しました。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
